



長野市で見かけた老舗の看板の文字のき裂（1997年，繰返し分割型）



松本城の案内板の割れ（2006年8月） 繰返し分割型

上の写真は、松本城の案内板の「線返し分割型」の割れで、一般の看板や案内板の塗装膜でもよく見られる割れ方です。割れが「島状はく離型」であれば、塗膜と基材の界面強度が小さく、塗膜が剥落してしまう場合があるため、案内板の役割が果たせません。一方、「線返し分割型」の割れは、塗膜と基材の界面強度が大きい場合に起こりますので、き裂による塗膜の分割が線返しされている限り、塗膜の剥落は起こりません。したがって、案内板の役割は果たせます。この案内板の写真を例に出した理由は、たまたま旅で見かけたというだけで、特別な意味はありません。割れは「もの」や「時間」を選びません。名画の絵具でも、看板の塗膜でも、一定の条件が整えば割れます。戸外では、塗膜が強い紫外線を浴びて劣化しもろくなります。塗膜と基材の熱膨張係数の違いから昼夜の温度差で塗膜に引張り応力が作用しますし、案内板に強風などが吹き付けると曲げ応力も加わります。塗膜にできた割れの先端から雨がしみこんで鉄基材の腐食も起こるでしょう。洞窟や美術館の中とは違って、これらは、塗膜にとってきわめて厳しい条件であり、いずれも塗膜に割れを生じさせ、基材からはく離させるように働きます。その意味では、塗膜は、色あせてはいるが、はく離することなく、必死に案内板の役割を果たそうとしているようにも見えます。



東北大学工学部青葉記念会館：木の断面の放射状割れが、装飾に使われている（誰かが、壁に空缶を挟んでいる）



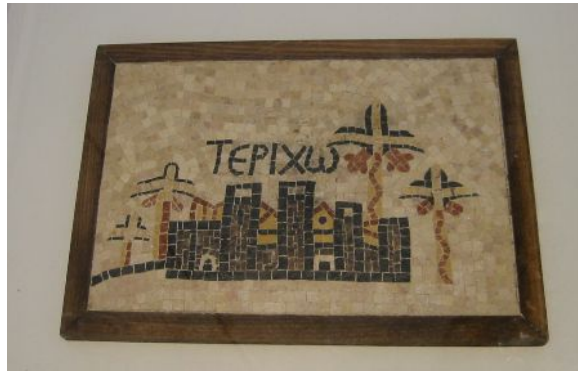
愛媛：砥部焼の窯元で見た乾いた粘土のらせん状のき裂



壺の釉の割れ（神戸灘の澤の鶴酒造）
大きな壺であるので、4段に分けてつくり
重ねて一体化してある



釉を筋状に垂らして、
模様になっている



名古屋万博のパビリオン（アフリカのどこかの国）で見たモザイク絵



名古屋城内部の壁の割れ

未完成です

ホームページに戻る

<http://www006.upp.so-net.ne.jp/nakasa/>